

# 森田副市長を迎えた豊橋市が目指す これからのまちづくり

## 第62号 ごあいさつ

6月議会一般質問は、『森田副市長を迎えた豊橋市が目指す、これからのまちづくり』です。

- 豊橋市の副市長は2人体制です。
- 一人は内部登用、もう一人は国交省（建設省、運輸省）の出身者が就任してきましたが、有野前副市長の退任以降、後任が補充されず1人態勢でした。
- 私たち自民党豊橋市議団も、国に副市長後任派遣を要望する中、念願の新しい副市長として森田康夫氏は4月1日就任、9か月ぶりの副市長二人体制に戻りました。
- 副市長就任当時の抱負では
- 「道路整備を進めてほしい期待に応え、調整に奔走したい」
- 23号バイパスや浜松湖西豊橋道路について、『これだけのネットワーク整備するのはこの時代めずらしいが、地域にとって大きなインパクトになる。渋滞解消や物流に必要なインフラなので、急がないといけない。強いネットワークで他の地域と競争できる環境を作るのが仕事』と述べておられました。
- また、副市長ご自身から、熊本地震発災後の、最前線での対応を画像を交えて伺う機会を得ましたが、実践派であるとお見受けしました。
- 趣味はインフラとのこと、4年間で豊橋をくまなく巡り、豊橋が第2の故郷と思えるくらい根差したいという個性にも注目するところです。



### 【質問の意図】

わが国では、本格的な人口減少時代を迎える中、巨大地震や気候変動による災害などに備え、国土強靱化の推進や、社会資本の老朽化への対応が求められてきています。

こうした中、森田副市長出身の国土交通省では、平成28年に「中部圏開発整備計画」を策定し、中部圏の将来像を実現するための基本方針を示しています。

リニア中央新幹線の全線開業により、中部圏が「スーパー・メガリジョン」形成のセンターを担い、「世界最強・最先端のものづくり」を基軸に、世界規模でグローバルにヒト、モノ、カネ、情報が対流する拠点となり世界をリードしていくことが期待される中、

● 本市としても、強みである、工業製造品等出荷額、1兆3,900億円のものづくりや、豊橋田原を合わせるとの日本一の農業産出額（推計）1,212億円を誇る、先端的農業など優れた産業

●（輸入自動車、金額・台数共に29年連続全国1位、輸出自動車、金額、台数ともに全国2位）国際的な自動車港湾である三河港をはじめとした物流ネットワークの構築を急ぎ、存在感を示したいところです。

**森田副市長は、これまでの経験を活かして、どの様にまちづくりをすすめていくのか**について伺います。

### 【森田副市長】

● 国土交通省の使命は、「人々の生き生きとした暮らしと、これを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しく良好な環境、多様性ある地域を実現するためのハード・ソフトの基盤形成」と定められております。

● 私はその使命を果たすべく、主に道路、防災の分野、特に平成28年の熊本地震の際には、熊本河川国道事務所長として現場で陣頭指揮をとりました。

● その様な中、副市長着任にあたり私が掲げた目標は、「競争に勝てるような強いインフラを作る」です。

● 本市においては特に、道路、港湾などのインフラ整備や、防災の対応が重要であると考えています。

● まちづくりや交流の基盤となる道路整備、物流の要である港湾機能の強化とともに、今後起こりうる新たな危機にも対応しうる強靱でしなやかなまちを目指した取り組みを進め、豊橋市の強みである産業の発展に貢献するとともに、市民の命を守っていきたく思っております。

● 加えて、国土交通省で培ってきた経験を活かし、国や県など関係機関とのパイプをより強固なものとし、地域の課題と国・県の政策をより効果的に結び合わせていけるように尽力していきたいと思っております。

● また、今までの経験を本市のより多くの職員に還元し、地域間競争の中で、東三河地域での連携を大事にしながら、豊橋市がさらに発展していけるよう、基礎を作り上げていきたいと考えています。



オミクロンとウクライナ情勢で、景気動向、見通しが大幅に下振れするなかでの国庫の状況逼迫は良く聞かるところですし、**高齢化・人口減少と地方財政**を鑑みると、本市の持つ**魅力や、強みに磨きをかけることは「選択と集中」の必須条件**と考えます。

**着任から2か月が経過したが、森田副市長の考える豊橋の魅力、強みについて** **森田副市長**

- 豊橋市は、日本の中央に位置し、首都圏、関西圏など大都市圏へのアクセスが容易で、東海道新幹線をはじめとする**鉄道4路線**が乗り入れる豊橋駅など、**鉄道インフラは充実**している印象を受けました。こうした点は、新たな交流が生まれることによる**地域活性化に大きな強み**であると考えます。
- また、国内外の**誘客**につながる**サイクルツーリズム**に注目しており、令和3年5月「太平洋岸自転車道」が**ナショナルサイクルルートに指定**されたことを受け、サイクルルートと周辺地域の様々なコンテンツを活用し、地域のにぎわい創出につなげていってほしいと考えています。
- このように本市には、交通の利便性や、山、海、川などの**自然**、地域に根差した**食文化、伝統文化**など**豊かな地域資源**が数多く存在します。
- これらは、私たちの先人たちが森林や田畑、鉄道、道路を整備し、川を治め、水資源を開発するなど、**絶え間なく郷土に働きかけ**を行うことにより、**郷土から恵みを返してもらってきた歴史の賜物**です。
- そのポテンシャルを活かしていくことで更なる発展が見込めると感じます。
- 現代に生きる我々世代も、郷土に対し働きかけを続け、将来世代に対してよりよい**社会基盤を引き継ぎ**よう**インフラ整備を進め**、市民の利便性向上や地域振興につながる**施策もセットで推し進めることでポテンシャルをさらに高め**、**他の地域と競争できる環境づくりが可能**であると考えています。

**再質問**

本市の強みをお尋ねしましたが、本市には弱み・課題もあります。しかし、弱みを克服することより、弱みを克服するな！**強みを見出し、活かす**という、ドラッカーの「人と組織の成長戦略」を、私は良しとしています。

**道路、港湾、防災。3つの重要な項目を挙げられた。それでは、それぞれどのように考えているのかについて** **森田副市長**

- 浜松湖西豊橋道路や国道23号名豊道路など広域幹線道路**については、東名、新東名高速道路、三遠南信自動車道路と一体となり、**広域的なネットワークを形成する重要な路線**です。
- 地域間交流の活性化や物流の効率化、防災力の向上など、様々な面において大いに効果が期待できると考えており、**早期実現に向けて、関係機関との協議や要望活動**を引き続き実施してまいります。
- 輸入自動車では金額・台数ともに29年連続全国1位の三河港**も、地域のみならず日本のものづくり産業の競争力や生産性を支える重要な港湾です。**港湾物流機能および防災・減災機能の強化のため、臨港道路や防波堤の早期整備**について引き続き関係機関へ働きかけます。
- 防災については、市民の生命・身体・財産を保護し、社会・経済活動を維持**することが**基礎自治体である市の最大の責務**です。そのためにも**国や県との強い連携は不可欠**であり、私はこれまでの経験を活かし、本市の災害への備えに力を尽くすとともに、災害発生時には迅速な対応を致します。

- 国が示す将来像実現に向けて
- 世界最強・最先端のものづくりの進化
- スーパー・メガレージョンのセンター
- 豊橋、東三河、三遠南信のネットワークと地方創生
- 安全・安心で環境と共生した東三河
- 次代を担う人材の育成と共助社会の形成
- 個性ある圏域の創成
- 競争力のある産業の育成
- 滞留・交流人口の創出
- 都市計画・・・など、国土交通省と密接な課題があります。
- 愛知県は「地域づくりの推進にあたっての横断的な視点」を
- 本年11月の「ジブリパーク」開業
- 本年工事着手する**愛知県新体育館**
- 「2026年のアジア競技大会開催」
- 「2027年中部国際空港第2滑走路」とする中で
- かつての(2005年)愛・地球博、中部国際空港整備の時の様に、**豊橋・東三河が取り残されることの無いように**にせねばなりません。
- 浅井市長は森田副市長を招いてどういったまちづくりを進めていきたいと考えているかについて** **浅井市長**

- まちづくりにおいて、「人づくり」、「産業振興」、「都市基盤整備」、「広域連携推進」は、本市が「選ばれるまち」となり、**持続的に発展していくために重点的に推進すべき非常に重要な要素**となります。
- なかでも、「産業振興」と「都市基盤整備」は切っても切り離せないものであり、都市基盤である**インフラ整備の充実**なくして**産業の発展は成し得ない**ことから、特にこの分野で力を発揮していただきたいと考えています。
- 森田副市長は、**熊本河川国道事務所長**として熊本地震を経験し、**道路や橋梁をはじめとするインフラの復旧・復興に力を尽く**してきました。今まで本市の職員が経験したことのない**貴重な経験**をもとに、**大規模災害のリスクに備えたまちづくり**に生かしていただきたいと考えています。
- また、**道路部門や企画部門**での様々な**制度設計**をはじめ、**広域的なまちづくりや都市基盤整備**に長年携わってきた**専門的な知識と経験**、そして、これまで培ってきた**幅広い人脈、国とのパイプ**を生かした**情報収集**にも期待しております。
- 強固なインフラ**によって、**本市のポテンシャルを最大限生か**していきけるよう先頭に立って本市のまちづくりを進めていただきたいと考えています。

**まとめ**

- 森田副市長の熊本地震での復旧・復興の経験が、いつ起きてもおかしくない**東南海地震への備え**が求められている本市にとって貴重であり、その知見を市政に反映させることは市長の使命です。
- 直近の取り組みとしては、**豊橋新城スマートIC**があります。
- 本市の産業のポテンシャルを高め、**新たな人流を促す**ことで周辺地域の活性化が**期待**できていると同時に、
- 防災面で本市は、**国や他自治体からの受援**に際して、**豊橋市中心部の地域防災活動拠点**へは、
- 東名高速道路の**IC**からは**浸水**で通行できない、
- 国道1号の**浜名湖**方面からも、**到達できない可能性**が指摘されています。
- その様な中、**豊橋新城スマートIC**は、**防災面でも、災害時の確実なルート**を確保できることが期待されています。
- スマートICへの機能的なアクセス道路整備**はこれからです。一日も早く取り掛かって頂きたい。
- 広域的なまちづくりや都市基盤整備**もまた、**好循環の「加速」**が求められています。

**私のおもい** 国土強靱化基本計画や国土形成計画における、人口減少下での復興の課題は、市街地整備に限りません。人口や産業の流出、地域コミュニティの崩壊など、都市活力や都市の持続性に関する課題を視点として踏まえ、事前の防災・減災対応を含めた総合的なまちづくり政策が重要です。災害危険性を考慮した将来の望ましい都市構造を見据え、その実現に向けた平時のまちづくり、被災後の迅速な復興等を目指し、ともに市民福祉の向上及び市勢の伸展の加速に努めます。

**発行**

伊藤とくや事務所  
豊橋市松葉町 3-70

☎090-3855-9696

[bbito@me.com](mailto:bbito@me.com)

FAX :  
0532-53-4557